



年頭の挨拶

新年あけまして

おめでどうございませす



和水町長
坂梨 豊昭

新年あけましておめでどうございませす。輝かしい新春を、家族の皆様で迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。旧年中は、町政各般にわたり深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

月日が経つのは早いもので、当町も合併して九年目を迎えるようとしております。本年四月には、町の一大事業であります小中併設型校舎建設事業の第一歩として、三加和区域の小中一貫教育がスタートします。記念すべき新生教育元年を迎えるにあたり、教育環境の充実を図るべく、気持ちを新たにいたしました次第です。

さて、昨年を顧みますと、政権交代から二年余りが経過し、流行語にもなりましたアベノミクスにより、景気回復に向けた経済対策がなされています。低迷する情勢の悪循環を断ち、企業の収益や雇用所得環境の改善が図られ、国民の消費拡大に繋がる好循環

環の経済情勢を期待しているところでございます。

また国内情勢に関係し従前より課題とされており、少子高齢化にあつては、十五歳未満の子どもの推計人口が三十二年連続で減少を続ける一方で六十五歳以上の人口が三千万人を超え、総人口の二十四％が高齢者という超少子高齢化が今もなお続いております。当町にあつても、未成年者千六百人、高齢者四千人と、全国平均を上回る高齢化率となっております。

そこで、少子化・定住促進対策の重点事業の一つとして位置づけ、今年十月を目途にサード整備事業に着手し、本年十月を目途に取り入れます。企業誘致を行う上でも必要な施策であり、かつ、住民がいち早く情報を取り入れる事の出来る情報化社会に対応した事業であるため、滞りなく推進し、定住者促進に努めて参りたいと思ひます。

また、若者の定住と子育てのしやすさ、まちづくりを促進するべく、昨年四月から、出生祝金を第二子から支給いたしました。出生祝金を第二子から支給いたしました。出生祝金を第二子から支給いたしました。出生祝金を第二子から支給いたしました。

その他にも、基幹産業である農業面におきまして、昨年三月、我が国のTPP参加表明がなされ、日本の農業や社会保障など、



和水町議会議長
多賀 勝丸

新年明けましておめでどうございませす。平成二十六年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、平素より議会に対し、あたたかいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと夏は高知県四万十市でこれまでの国内最高気温を更新し、41.0℃を記録。また気象庁の927観測点のうち143箇所でもこれまでの最高気温を更新するなど、各地で記録的な猛暑となりました。

一方、局地的な豪雨、竜巻等が発生するなど地域による偏りも大きい異常気象でありましたが、和水平町におきましては、幸いなことに昨年は大きい自然災害もなく平穏な年でありました。

いま、日本の国境周辺は、尖閣諸島、竹島問題等で中国・韓国との関係は緊張感に満ちて外交を揺るがす事態が続いています。経済においては、「アベノミクス」によつて大胆な金融政策により、円安・株高・物価上昇が進み、景気回復への期待から個人消費が伸びるなど、その効果は着実に浸透していますが、「景気回復を実感していない」のが実情です。

政府は今後、消費税率の引き上げに伴

い、景気の腰折れを防ぐための五兆円規模の経済対策を実施する方針です。景気回復を本格化する議論の中心が問われることになりそうです。

昨年の明るい話題として、「ミスター」と呼ばれた長嶋茂雄ジャイアンツ終身名誉監督と、「ゴジラ」のニックネームでジャイアンツやヤンキーズで活躍した松井秀喜選手の国民栄誉賞受賞が決まり、多方面から称賛の声が寄せられました。又、東京オリンピック・パラリンピック開催の決定等日本中に歓声が沸くという明るい話題もありました。

このような中、我が町としましては小中併設型校舎建設にあつては、三加和区域におきましては、平成二十六年四月の開校に向け工事が着実に進んでいるところであり、菊水地区におきましては、住民投票の不成立等もあり、難色を示しておりますが、次代を担う人材育成のため、小中一貫教育の環境を整えることが最重要課題であり、町議会に与えられた町民の皆様からの信任とご期待に添うべく、今後も引き続き執行機関と切磋琢磨しながら鋭意努力してまいりたいと考えております。

また、町民の安全・安心な生活環境の整備と魅力ある町づくりの実現に向けて積極的に取り組むとともに、町民に開かれた議会を目指し、議会の機能強化・充実、運営の改善等の議会改革を推進してまいります。

今後とも町民の皆様にはより一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、本年も、町民の皆様にとつて素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



和水町病院事業管理者(院長)
志垣 信行

新年あけましておめでどうございませす。町民の皆さまも健やかに新春を迎えることと心からお慶び申し上げます。

和水町立病院におきましては、昨年四月に経営形態を地方公営企業法の一部適用から全部適用に変更して診療を行つております。これが意味するのは病院経営の主体性を町から病院に移したという事であり、和水平町直営の公立病院であることには変わりなく、職員も公務員のままで、以前と同様に診療を行つております。この変更の目的は町立病院の健全な経営を確立することです。当院に限らず地方の公立病院は赤字を見込めない診療も行う必要があるため交付金が支払われていますが、今後とも同じ額がもらえるとは限りません。むしろ減額される可能性が高いと思われ、町立病院の経営が悪化すると町の財政にも悪影響が及ぶこともありますので、そのようなことがないように病院独自の経営努力が必要になつております。



国益の低下が懸念されております。賛否両論の議論が飛び交う中で、農業を基幹産業とし認定農業者およそ百三十名を有する我が町におきましても、県との意見交換及び情報共有を図りながら町の農業をはじめ商工業を守るための備えを十分に検討して参りたいと考えております。

冒頭にも述べました小中併設型校舎建設事業に伴う跡地活用につきましては、企業から活用法を頂き、現在より効果的な活用を検討いたしております。適地適性を鑑みながら慎重に協議を重ね、町の発展と住民サービスに繋がる活用を図つて参ります。

結びになりますが、昨年来、我々を取り巻く環境はますます厳しさを増し、雇用問題や景気問題及び年金問題など、日本国内のみならず世界的に難問が山積いたしております。

しかしながら、地域の皆様の安全安心を第一に考え、生活を支えるのが我々地域行政を預かる者の役割であります。皆様のお力をお借りしながら、地域経済発展のため最大限の努力をして参ります。町民の皆様には引き続き町政に対するご支援とご協力を賜りますよう心からお願ひ申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

まずは町民の皆さまが更に町立病院を利用していただけるよう、ケアパスの本数を増やしたり、ふれあい大学などで講演を行つたりして、また消化器科、特に内視鏡検査・治療においては、専門の市原先生が平成二十五年四月から常勤で来られましたので、他の専門病院と比較しても遜色のない苦痛の少ない大腸ファイバー検査ができるようになりました。内視鏡検査のできる医師は四人おりますので、当日朝に食事抜きで受診されるとその日に胃内視鏡検査ができる体制も整つております。ぜひご利用ください。そして今年も職員一同でさらに利用しやすく信頼される病院作りに励みたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

和水平町は年々高齢化が進み、現在六十五才以上の人が約36%になります。どうしても生活習慣病や腰痛・膝痛などの整形外科疾患が増えています。転倒による脊椎骨折や大腿骨骨折も頻繁に起こっています。病気に對しては早期発見・早期治療が重要です。そして予防できればそれに越したことはありません。人間五十才を過ぎるといろいろな体の変動が生じてきます。自覚症状がなくても毎年特定健診や人間ドックを受け、時には骨密度検査を受けるなど、日頃から健康に気をつけていただき、今年も充実した快適な一年を過ごしていただきたいと思います。